

令和2年度の幼保連携型認定こども園学校評価として、教職員自己評価を実施致しました。
 今回の教職員自己評価は常勤教職員29名のアンケートによって実施し、教職員一同、園全体、学年、クラス、自己自身を改めて見つめ直し、更なる自己研鑽を目指す良い機会となりました。
 今年度はコロナウイルス感染により、これまでとは違う形で保育を行うことを余儀なくされることになり、様々な面で保育のやり方等について考える年となりました。引き続き保護者の皆様からの声も真摯に受けとめ、保育教育の充実、教職員の資質向上に努めたいと考えております。

【1】教育目標

教育目標	
1. 健康	じょうぶなからだ
2. 豊かな情操	やさしいこころ
3. 思考と判断	かんがえてすすむ
教育方針	
1. 遊びを大切にしたい年齢に合った体験を豊富にすることによって子どもらしさ（生き生きとした・失敗を恐れない・意欲的な）と年齢にふさわしい自立心を身につけること。	
2. 保育者達の大きな愛情に包まれて集団生活を送ることにより、人との関わり方の基本を学ぶこと。	
3. 一人一人の子どもの発達に応じたキメ細かい対応をし、その子の長所を伸ばす教育を。	

【2】重点的に取り組む目標・計画

<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍における新しい教育・保育を模索し、コロナ禍でも子どもたちが元気に楽しい園生活を送れるよう工夫する。 ・ 時代に即した社会のニーズに応える質の高い認定こども園の実現を図るために、魅力ある幼児教育・保育施設をめざし、カリキュラム、外部向け情報提供、園の施設などの見直し、改革を進める。 ・ 保護者の利便性向上、教職員の業務負担軽減を図るために一層の業務の見直し、ITの活用を進める。

【3】評価項目と取り組み状況

A:達成されている B:取組はされているが十分ではない C:取組が不十分である

具体的確認項目	評価	取組状況・今後の取組等
教育目標・教育方針		
幼保連携型として乳児（0～2才）の育ちから幼児（3～5才）の教育まで一貫した教育目標や教育方針が作られているか。	A	0-2才、3-5才の保育教育目標や方針を作成しているが、幼保連携型認定こども園として、幼保で共通認識を図れる機会を作ることに今後更に努力していきたい。
目標や方針を共有するための取組が行われているか。	B	保育教育目標や方針は、園長からの講話などを通じて共通認識を図っている。教職員の人数が多いので、共有方法には更なる工夫が必要。また、認定こども園として、幼稚園と保育園の認識の共有が更に図れるように工夫する必要がある。
教育課程・指導計画		
学年ごとの成長をふまえた保育カリキュラムが作られているか。	A	各クラスの担任が子どもの実態を把握し、それぞれの状況にあわせてカリキュラムを作成。月1回カリキュラム会議を実施し、当月の狙いや個別対応の情報交換も行っている。
保育カリキュラムの評価・反省を行い、日々の実践に活かし取り組んでいるか	A	日誌で日々の振り返りをしたり、月間、年間でも振り返りをして課題の洗い出しをしている。
教育環境整備		
多様な活動内容や形態に応じた施設、設備や教材、教具等がそろえられているか。	A	必要な施設、設備、教材等はそろっている。引き続きニーズに合ったものを検討していきたい。
教育の内容・方法		
一人一人の乳児・幼児をよく観察し子どもの気持ちを受け入れ、保護者との信頼関係を構築し、興味や能力に応じて活動することにより、成長に応じたかかわりがなされているか。	A	園の最重要共通目標として全教職員が日々心がけている。保護者に対しても、親子面談のみならず、日々個別に園での様子を伝えるなどして保護者との信頼の構築に努めている。
運動遊び、造形、音楽なども含め、総合的な活動を実施できているか	A	今年度はコロナ禍のため、安全・安心を最重要課題とし、様々な行事や授業を実施方法を工夫して実施した。体育、音楽、造形・絵画では専科の先生が入っており、運動会、音楽会、作品展などに向けて授業を行い、成果が出るようにしている。その他、動物の世話や高原文庫を活用して、動物や読書が身近になるように取り組んでいる。

	具体的確認項目	評価	取組状況・今後の取組等
教職員の資質・能力向上			
	教職員の資質や能力向上のための取組が十分に行われているか。後輩の育成に努めているか。	B	園内外の研修は充実しており、保育園部門では月1回の園内研修を実施している。日々の保育が充実するよう、意見を出し合い取り組んでいる。新しい先生も多いので引き続き園内でのサポート体制を確立し、能力向上に努めたい。
安全管理体制の整備			
	安全管理の為に体制は十分に整っているか。具体的にどのような取組を行っているか。	B	毎日の安全点検に加え、安全衛生委員会を月1回開催し問題の洗い出しや解決を図っている。今年度は特にヒヤリハットを毎日確認するようになり、安全への意識が向上した。今後更にマニュアルを整備し、職員全員が共有できる仕組みを作りたい。
衛生管理体制の整備			
	衛生管理の為に体制は十分に整っているか。具体的にどのような取組を行っているか。	A	コロナ禍で感染対策や感染者等発生時の対応等について、園でルールやマニュアルを作成し、全教職員で徹底することができた。保護者にもきめ細かく連絡を行った。産業医を含む安全衛生委員会を月1回開催、課題の洗い出しや解決をはかっているが、コロナ禍で行事の実施可否等についてもアドバイスを得ることができた。
子育て支援			
	保護者の子育て支援は積極的に行っているか。具体的にどのような取組を行っているか。	C	今年度はコロナのため、もりのこ地域育児支援事業、保護者向け講演会などは実施できなかった。未就園児事業りんごクラブはグループを分けるなどやり方を工夫して実施、外部の先生による個別相談は回数を減らして実施した。
保護者、地域の人々、関係機関との関わり			
	保護者、地域住民が園運営に積極的に関わっているか。	B	母の会やクラス委員などが中心となって、保護者にも園でのイベント実施に積極的に関わって頂いているが、今年度はコロナのため一部活動ができなかった。
	地域の人々や関係機関との関わりを積極的に持つことができているか	C	卒園生の課外教室や高原文庫の一般開放などを行っているが、今年度はコロナがありあまりできていない。ホームページなどを活用して地域の方々にも知ってもらえるよう広報強化に努めたい。園長会、幼保小連携、福祉保健センター等関係機関との情報交換はできている。
運営管理			
	常に保護者の利便性の向上や教職員の業務の効率化をはかることを念頭におき工夫をしているか。具体的にどのような取組を行っているか	B	コロナ禍で、保護者アプリ「コドモン」での一斉連絡や保護者との連絡、バス位置情報サイト「ルクミー」の利用など、オンラインでの情報発信・やりとりを行えるようにし、保護者の利便性の向上をはかった。また行事についてもコロナ禍で無観客での実施となったが、行事の模様等を保護者にYouTubeで配信するなど工夫した。教職員の業務量は増加しており、仕事の内容・やり方の見直しが必要だと考えている。
	教職員間の協力の声かけや意見や提案を言うことができているか。具体的にどのような取組を行っているか。	B	日々のミーティングや会議などで、お互い意見を出し合い、改善が必要な時は話し合うようにしている。教職員が積極的に提案ができるような自由な雰囲気を作れるように考えたい。
	仕事の係分担やチーム体制が適切に機能しているか。園の明確な運営・責任体制ができているか。	B	各行事や事務などは年度初めに係分担やチーム体制を作って進めている。負担が集中している時や責任体制が明確でない場合もあり、今後も改善をはかっていきたい。
	教職員が働きやすい勤務環境が作られているか	B	今年度はロッカールーム、教材室の改修・工事を行った。教職員が仕事に追われている現状があり、今後一層の業務内容の見直し、効率化をはかり、教職員が余裕を持って仕事ができるようにする必要がある。
情報提供			
	保護者や関係者に対して十分かつ効果的な情報提供をおこなっているか。外部向けに広く周知するための取組は行われているか。	A	今年度はコロナ対策の連絡や行事の変更などが頻繁にあり、保護者向けのアプリ導入やYouTubeを利用した情報提供などを積極的に進めた。保護者のみならず園児募集、未就園児向け活動もオンラインでの情報提供や申込ができるようにした。